

プラスチック鉢に特化した不要園芸品回収の取組

実施報告書

株式会社グリーバル

表紙	1.
目次	2.
1. 背景	3.
2. 目的	3.
3. 実施体制	3.
4. 事業内容	4.
5. 実施内容	5.
5-1. 企業と団体との協力	5.
5-2. 東部公園との協力	6.
5-3. 夢の島での取組み ①	7.
5-3. 夢の島での取組み ②	8.
5-3. 夢の島での取組み ③	9.
6. 本事業の結果	10.
7. まとめ	11.

1. 背景

株式会社グリーバルは、夢の島公園・夢の島熱帯植物館の指定管理者「アメニス夢の島グループ」の構成企業の一つである。

本事業は夢の島公園を中心に展開した当社の自主事業にあたる。(運営管理費不使用)

2022.2 新木場や辰巳地区にて 地域課題についてリサーチを重ねた。

近隣団地での急速な高齢化、園芸離れは顕著で、園芸資材の廃棄方法の問い合わせが自治体に継続的にあるが、それに対し特別な対応策は出来ていないと伺った。

それを受け近隣団地で「まだ使える中古園芸資材の回収活動」を行い、夢の島公園でその資材「無料提供」する園芸リサイクル活動を行った。そこから明確になったのは、

「中古品でも丈夫なプラスチック製品は人気」であること。そして

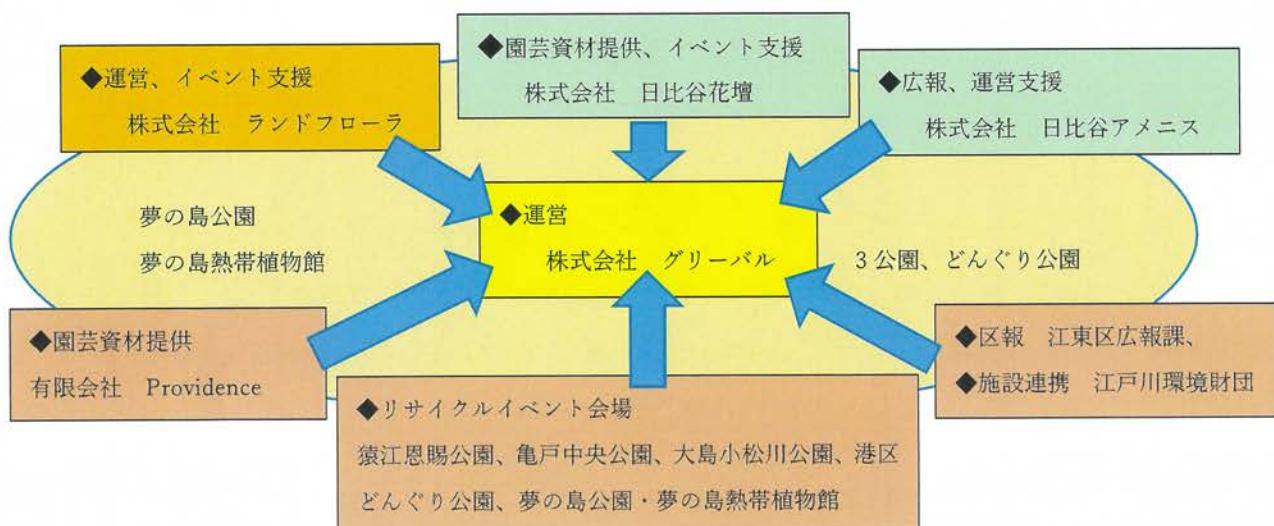
「提供イベントで人気の物は 軽く持ち帰りやすいプラスチック製品」という点であった。

まだ使えるプランターなどを欲しい方に譲ることで、廃棄予定だったプラスチックの長寿命化を図る。さらに園芸を気軽に始められ 終えられる優しい仕組みづくりを広げたい。

2. 目的

- ◆ 高齢化の進む地域のお悩みに寄り添う問題の解決
- ◆ 長く園芸を楽しむためのグリーンインフラ的サポート
- ◆ 継続的で無理のない、園芸プラスチックゴミの廃棄量の削減活動

3. 実施体制



4. 事業内容

当社のグループ企業が管理する近隣公園、猿江恩賜、亀戸中央、大島小松川の3公園でプラスチック鉢の回収を行う。

夢の島公園をリサイクルの中継地と定め、その回収したものの洗浄や整え、提供までを行う。

「中古鉢の無料提供」を通じて、園芸リサイクルやSDGsの取組みをPRする。

また他の協力団体や公園と共に地域のニーズを探り、継続的な視点で今後の展開に活かす。

【3つの取組み】

◇回 収： 大掃除シーズンに合わせ、プラスチックに特化した不要園芸品の回収を行う

◇連 携： 公園同士の連携、顔の見える活動、地域ニーズのヒアリング

◇提 供： 夢の島公園をリサイクル中継地として欲しい人へ渡す

【開催時期】

2023年11月～2024年2月

【告知】

江東区報、公園掲示板、チラシ、Twitter、Instagram

【回収場所】

東部7公園から3か所。●猿江恩賜公園、●亀戸中央公園、●大島小松川公園

【回収物】

プラスチック鉢、プランター等。回収後 協力公園公園と分配。

(2月無料配布イベントで利用)

【他施設との連携】

●夢の島公園を中継地にし ●港区どんぐり公園、●江戸川環境財団、も含めた連携事業



5. 実施内容

5-1. 企業と団体との協力

◆江戸川環境財団（2023.11.10）

江戸川区は以前から独自で廃棄予定の園芸資材回収、リサイクルの取組みを行っている。しかし感染症によるイベントの中止 自粛等により、現在資材の需要と供給のバランスが崩れたため在庫が増加しているとの相談を受けた。

- ・過剰在庫を減らしバランスを保ちたい
 - ・同様の取組みで協力したい
- とのご提案から、過剰に余るプラスチック鉢を貰い受けに伺った。受入数 50 鉢



◆港区どんぐり児童遊園（2023.12.10）

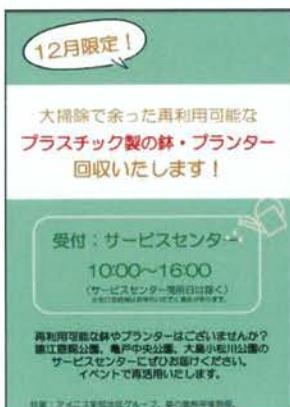
当社が管理する公園の一つ。クリスマスイベント時に中古プラスチック鉢を展示。近隣住民やスタッフからのヒアリングを行った。「軽いプラスチック鉢なら持ち帰れる」「重い鉢は運びにくい」等の意見を頂きスタッフの関心も高かった。今後「地域と共にできる活動」として園芸リサイクルを行う予定である。



5-2. 東部公園との協力

日比谷アメニスが指定管理で代表を務める東部7公園のうち、夢の島からほど近い3公園で不要鉢の回収を呼びかけた。区報や園内掲示等で事前告知。多くの鉢が集まった。(2023.12.1~28)

◆亀戸中央公園 40鉢 ◆猿江恩賜公園 23鉢 ◆大島小松川公園 54鉢(在庫 60鉢) 回収 177鉢



▲プラスチック鉢回収 園内告知

▲回収風景



▲亀戸中央公園



▲積込風景



▲猿江恩賜公園



▲大島小松川公園

5-3. 夢の島での取組み ① イベント準備・中学生との協働

◆職業体験① 江東区立有明西中学校 (2023.12.13)

夢の島公園、植物館が受け入れている職業体験の中学生に対し、リサイクル活動について説明。回収し、保管しているプラスチック鉢の洗浄作業し2月のイベントに備えた。

洗浄1回目 17鉢 13.35kg



▲ スポンジで泥汚れを落とした



▲ 倉庫の日向に並べて乾かした

◆職業体験② 江戸川区立松江第五中学校 (2024.1.17~18)

夢の島公園、夢の島熱帯植物館が受け入れている職業体験の中学生に対し、リサイクル活動について説明。12月に他公園から回収したプラスチック鉢のうち七割を洗浄し整えた。

洗浄2回目 115鉢 40.25kg



▲ 公園の仮置場からリヤカーで運搬



▲ 植物館のバックヤードで洗浄



▲ 個数を把握した後、体重計を使って計量した



5-3. 夢の島での取組み ② イベント立案、準備、PR

◆チラシ掲載 夢の島熱帯植物館イベントチラシ 1~3月(2023.12発行)

カカオの木を保有する夢の島熱帯植物館。2月はバレンタインイベントも増え、その雰囲気を期待する来館者も増加する。中古プラスチック鉢にも「誰かからのプレゼント」という「For You」感を出すため、ハートをモチーフにしたタグを作成。

またチラシから内容抜粋したものを館内にて掲示した。



▲ 夢の島熱帯植物館 1~3月チラシ



▲ 中学生がバレンタインのタグを作成



▲ハートモチーフと For you メッセージ

◆連携回収による鉢数 計 262 鉢

回収 1回目 50 鉢 江戸川区

回収 2回目 177 鉢 猿江、大島、亀戸

回収 3回目 35 鉢 (株)ランドフローラ(株)グリーバル現場発生材、個人寄付

◆夢の島提供イベント用 計 149 鉢 69.15kg

洗浄・計量 1回目 17 鉢 13.35kg 中学生

洗浄・計量 2回目 115 鉢 40.25kg 中学生

洗浄・計量 3回目 17 鉢 15.55kg スタッフ

◆残り 113 鉢

ひび割れ劣化 20 鉢、底面吸水用付属品不足 8 鉢、

アレンジメント用底面穴無容器 25 個、次回の資材として保管 60 鉢

5-3. 夢の島での取組み ③ イベント開催・インターンシップとの協働

◆イベントの様子(2024.2.11)

当日は 法政大学インターンシップ 2 名、グリーバル 1 名、ランドフローラ 1 名と共にイベント運営を行った。会場を植物館敷地内にした事により、公園開催より一層 植物に興味を持つ対象者への PR 効果が得られた。「チラシをみた」「このイベントのために来た」というお客様の声も多く、広報活動の成果を上げる事ができた。



▲イベント当日の様子



▲149 個の鉢を並べ賑わいを演出



▲インターンシップの大学生とお客様



▲シールアンケートは子供達にも好評



江東区立有明西中学校

2023年12月12日～14日

3日間の職業体験。鉢の洗浄に協力頂きました。



江戸川区立松江第五中学校

2024年1月17日～19日

3日間の職業体験。鉢の洗浄に協力頂きました。

▲ 中学生職業体験との連携を掲示

6. 本事業の結果

◆ イベント参加者

夢の島熱帯植物館 2024.2.11(日) 入館者数 979 名

◆ イベントでの提供数 149鉢 提供重量 69.15kg

お客様のお持帰り数 120鉢 持帰り重量 60.80kg

(余り数 29鉢) (余り重量 8.35kg)

※ 余った鉢については、春のリサイクルイベントで提供予定

プラ鉢個数



プラ鉢重量



リサイクル率 81% プラスチック廃棄減 60.8kg

◆アンケートの結果 (126名が回答)



99% が「続けた方がいいと思う」



▲ 開始時 149鉢

▲終了時 余り 29鉢

【好まれる傾向】

- ・大型鉢（装飾鉢、深鉢プランター）
- ・植替え資材（欲しい色やサイズが具体的）

【参加者の声】

- ・家に提供したい鉢がある、次回持ち込みます
- ・子供と「リサイクル」を考えられて嬉しい
- ・実家のある静岡でもやってほしい

7.まとめ

夢の島熱帯植物館入口でのイベント開催により、植物に興味のある客層に対し直接PRすることで一定の効果が得られた。また館では同時期にバレンタイン企画展が催され、ハートフルな雰囲気もリサイクルの後押しに一役買った。「事前チラシを見てこのイベントのために来た」というお客様もみられ予想以上の反響があった。

今回のイベントは「視覚的な分かりやすさ」にも重きをおいた。一目で何をしているのか、日本語に不慣れな海外のお客様にも伝わるよう、活字情報をそぎ落とし視覚的情報を意識した。それにより子供たちも理解しやすく、単純な設問のシールアンケートに対しても楽しく参加してもらえたため親子連れの滞在時間は長かった。これらのことから今回のイベントを通じて園芸リサイクルへの取組みの成果が得られた。

各戸に配布される区報やチラシによる宣伝。複数公園との協力体制。重量、数、アンケート等の数値化、などから当初の目的(P.3)はおおむね達成できた。

今後も地域のニーズを伺いながら、複数の公園と共に協働し、リサイクル活動のモデル化と水平展開を目指す。

【今回の反省】

- ・各公園から汚れた状態で回収したため、洗う手間が一か所に集約してしまった
- ・特殊プランター製品の中には、対となる鉢底ネットがないと使えないものもあった
- ・劣化損傷したプラスチック鉢の適正な処理方法の紹介が足りなかった

【余った資材】

- ・春のリサイクルイベントで提供、植物交換会のメンテナンス資材に使用する

【若年層との協働】

- ・中学生との資材準備、イベント運営でのインターンシップの学生との協働など、若い人たちのリサイクルへの理解や関心を深める取り組みにすることができた。

【次回への展望】

- ・学校や企業団体と協力、省力化、定期開催によるリサイクル促進を目指す。